教育研究業績書

2025年10月20日

所属： 心理学科　　資格： 講師　　氏名： 太子　のぞみ

研究分野	研究内容のキーワード
生涯発達心理学、応用老年心理学	高齢期、適応方略、日常記憶、高齢運転者
学位	最終学歴
学士（発達科学）・修士（人間科学）・博士（人間科学）	大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.Googleシステムを用いた授業運営	2023年4月~現在	Google Classroomを始め，Google formwo用いた出欠，課題の提出，テスト，Google Meetを用いた遠隔オンデマンド授業，遠隔ライブ授業，ドキュメント，スライド，spreadsheetを用いた共同作業を授業に活用し，受講生の学習を促した。
2.遠隔授業についての工夫	2020年4月~2023年3月	京都女子大学発達教育学部「産業・組織心理学」ではZoomを用いた遠隔授業を実施し，理解を深めやすいように講義内容に合わせ，随時受講生の意見を反映した授業運営や改善を行った。京都女子大学発達教育学部「産業・組織心理学」ではZoomを用いた遠隔授業を実施し，1の2)で記述した学習支援と合わせて理解を深めやすいように講義内容に合わせ，随時受講生の意見を反映した授業運営や改善を行った。また，特別研究員RPDとして参加した同志社大学心理学部のゼミ・院ゼミでは，Teamsでの発表や資料共有などを行っており，遠隔での演習も滞りなく進行した。
3.FD研修を参考にした授業方法改善・実施	2015年4月~2018年3月	大阪大学大学院人間科学研究科にて，毎年FD研修を受講し，授業時間外学習を促すシラバスやITツール，反転授業入門，授業でTA制度を活用するコツなどを学び，自身の授業などに活用した。
4.通信教育課程の授業方法の工夫	2014年4月~2021年9月	京都橘大学通信教育課程「環境心理学」科目について，社会人学生が多いことや通信であることを考慮したテキスト選び，実社会との関連性の強い課題設定を行うなどの工夫を行った。2019年度からは一部メディア授業も取り入れ，学生の意欲・理解度の向上に取り組んだ。
5.学内情報ポータルを活用した講義外の学習支援	2013年9月2021年3月	同志社大学心理学部「高齢者大学」，「交通心理学」，京都橘大学「環境心理学」，同志社女子大学「子どもの発達心理学」，京都女子大学「産業・組織心理学」では受講生の意見を反映した上で，学内ポータルを用いた資料配布，出席コメント，課題やレポート提出，アンケート機能，掲示板，フィードバック，追加資料の掲載等を行い，講義外の学習支援に努めた。
6.特別な配慮が必要な学生への授業方法の工夫	2009年4月~現在	事前に特別な配慮が必要な学生の受講について連絡を受けた場合に，受講生の状態に合わせて適した授業方法の提案や改善を行った。
7.授業アンケート結果に基づく授業方法改善・実施	2009年4月~現在	担当する授業では，授業後半に実施するアンケートに加えて，ポータルのアンケート機能や各回で提出するコメント等の機会に表出される意見や受講生の受講姿勢を踏まえて，随時授業方法を改善するように取り組んできた。例えば，ポータルと印刷資料の配布の希望に応じた提供や，質問に応じた知見の提供を提供した。また，照明や室温，音声や情報機器類の改善といった授業環境の整備についても随時調整を行うなど改善策を講じている。
2 作成した教科書、教材		
1.専門演習の指導教材	2023年4月~現在に至る	専門演習を通して，卒業研究指導のために，各受講生に対して文献検索，研究計画立案，実験材料・調査項目の作成，倫理審査申請書の作成，調査依頼，各種

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		データ処理，分析，卒論・抄録作成，中間報告会および最終審査会での審査に向けて随時教材を作成した。
2.教養科目「心理学」テキスト『あなたとわたしの心理学』（仮）（ナカニシヤ出版）分担執筆	2020年3月	羽野ゆつ子・竹原卓真編集，第10章「人はどのように年齢を重ねていくのか？－中年期・高齢期の心理学－」を担当し，生涯発達の観点から，中年期のキャリア，育児，介護等の課題と変化，高齢期の機能，パーソナリティ，人間関係等の課題と変化，そして人生の締めくくりである死に至るまでの発達についてまとめ，初学者の理解が深まるように執筆した。
3.通信教育課程のメディア授業動画教材	2019年4月	京都橘大学通信教育課程「環境心理学」科目について，2014年度から実施していたテキスト授業に加えて，教員の授業動画を事前に学内スタジオにて撮影し，学生が閲覧できるように提供した。
4.個人で担当した講習等教材	2015年9月~2023年3月	滋賀県警察本部交通部滋賀県指定自動車教習所職員講習，公益社団法人奈良県トラック協会高齢者事故防止講習会，公益社団法人奈良県トラック協会交通安全セミナー，近畿交通共済協同組合地域事業主・運行管理者事故防止セミナーでは，講師個人として，会の趣旨，受講者に合わせ，心理学の観点から，交通安全の知見について教材を作成した。
5.複数名で担当した講習等教材	2015年6月~2021年3月	一般社団法人京都府指定自動車教習所協会京都府指定自動車教習所職員講習，一般財団法人大阪府交通安全協会安全管理者講習，一般社団法人大阪自動車学校協会大阪府自動車学校職員講習では，各年主なテキスト執筆者の原案の下，関西圏の交通問題に携わる学識者で協議して教材を作成した。
6.心理学関連演習・実験実習等で作成した教材	2012年9月~現在	同志社大学文化情報学部「ジョイントリサーチ演習2」では，人間行動分野演習として，心理物理学的方法錯視，パーソナルスペース計測法，SD法について，教員で教材を作成し，使用した。大阪大学人間科学部「心理学実験」では，知覚運動学習，一対比較法，錯視，質的研究法，記憶実験，尺度構成法について，教員で教材を作成し，使用した。武庫川女子大学心理・社会福祉学部では，2023年度「心理学実験Ⅰ」では錯視，「心理学実験Ⅱ」では質問紙調査法（尺度構成），2024年度「心理学実験」では対人距離，2024年度「初期演習Ⅱ（心理学実験演習）」ではプライミングについて，2025年度「社会調査実習」で質問紙実験に関する教材を作成し，使用した。
7.演習用補助教材	2009年4月~現在	追手門学院大学心理学部「ビジネスリサーチ演習」では，SPSSを用いたグループでの質問紙調査およびPowerPointを用いた研究発表の補助教材，京都府医師会看護専門学校「情報科学Ⅱ」では，Excel処理・統計を用いたグループでの質問紙調査の補助教材の作成を行った。武庫川女子大学「心理学英語文献講読」では，Google formを用いた理解度テストや英文理解のための教材作成を行った。
8.講義用補助教材	2009年4月~現在	京都府医師会看護専門学校「情報科学Ⅰ」，同志社大学心理学部「高齢者心理学」「交通心理学」，京都橘大学健康科学部「環境心理学」，大阪大学全学共通教育科目「現代教養科目 現代社会を読み解く：現代社会の行動学」，同志社女子大学現代社会学部「こどもの発達心理学」，京都女子大学「産業・組織心理学」，武庫川女子大学短期大学部「こどもの心理学」「高齢者の心理学」，武庫川女子大学「心理調査概論」「心理学研究法」「発達心理学Ⅱ」「心理学トピックス」「生活の中の心理学」「心理学概論」，関西学院大学「エイジング心理学」では，授業の進行や学生の理解度・受講姿勢に合わせた資料を作成し，授業中の資料配布やポータル等を用いたオンライン上での配布等を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.関西心理学会第136回大会準備委員	2025年11月9日	関西心理学会第136回大会の大会準備委員として，武庫川女子大学学校教育館にて開催される大会準備・当日運営に携わる。
2.大阪府安全運転管理者等講習特別講師	2025年4月1日2027年3月31日	大阪府内で実施する安全運転管理者等講習における特別講師として、期間内に数回、 1回につき1時間30分の講習の講師を務める。複数の講師で講習教材を作成し、手分けして、大阪府内の各会場にて講習を担当する。
3.令和6年度指定自動車教習所職員講習講師	2024年9月2日2024年9月3日	令和6年度指定自動車教習所職員講習にて副管理者を対象とした講師を務めた
4.日本老年社会科学会第66回大会実行委員・大会	2024年6月	2024年6月に奈良県帝塚山大学にて対面にて開催予定の第66回大会のために大会事務局として活動を行った。
5.日本発達心理学会ニューズレター編集委員	2024年1月~現在	日本発達心理学会ニューズレターの編集委員として，特集記事を含め各種記事について年2回の発行活動を行っている。
6.近畿交通共済協同組合地域事業主・運行管理者事故防止セミナー講師	2020年7月2022年3月	近畿圏において地域別に年4回，事業主・運行管理者に対して，「多様なドライバーが共存する交通社会に向けて―心理学の観点から―」というタイトルでトラック運行に関連する交通安全知識について講習を行った。
7.日本発達心理学会第31回大会委員	2020年3月	大会委員として，大阪国際会議場で開催予定であった日本発達心理学会第31回大会の準備を行った。コロナウイルス感染症のため，大会は成立したものとするが，開催期間に会場には参集しないことになった。
8.一般社団法人京都府指定自動車教習所協会京都府指定自動車教習所職員講習講師	2019年9月	京都府の指定自動車教習所の職員に対して，「若者への交通安全教育―心理学からのアプローチ―」というタイトルで，講習を行った。
9.日本交通心理学会第84回大会日本交通心理学会第84回大会シンポジウム「様々な領域におけるリスクをめぐる心理学的研究―交通心理学の課題と発展に向けて―」企画	2019年7月	企画代表者として，4名の話題提供者を招き，陸上交通だけではなく海上交通，あるいは日常生活におけるあらゆる犯罪といった多様な領域において安全に関わる心理学的研究について報告頂いた上で，中谷内一也先生，芳賀繁先生に指定討論として招き，改めて交通心理学の課題と発展について考える契機となった。
10.日本交通心理学会第84回大会準備委員	2019年7月	大会準備委員として，同志社大学今出川キャンパスにて開催された日本交通心理学会第84回大会の準備を行った。また大会プログラムに沿って総合司会を行った。
11.一般社団法人大阪自動車学校協会大阪府自動車学校職員講習講師	2019年6月~2021年3月	2019年度は「学習者の特徴を踏まえた教習の工夫」，2020年度は「「あおり運転」と自動車教習所―カーコミュニケーションと感情制御―」というタイトルで，大阪府の指定自動車教習所の指導員を対象に，講習を行った。
12.公益社団法人奈良県トラック協会交通安全セミナー講師	2019年2月	奈良県トラック協会は上牧町役場で子ども，親，高齢者の3世代を対象として交通安全セミナーが開催され，「高齢者の行動と交通安全について」というタイトルで，高齢運転者と高齢歩行者の傾向と交通事故防止対策を説いた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
13.日本海洋人間学会代議員	2018年9月2020年9月	海洋環境で活動を行う人たちに対しての安全の確保，海を通じてのよりよい教育プログラムの提供等を目指した日本海洋人間学会の代議員として任期期間中に活動を行った。
14.日本応用心理学会第85回大会スタッフ協力者	2018年8月	大阪大学吹田キャンパスにて開催された日本応用心理学会第85回大会にて，大会プログラム表紙作成及び当日運営に際して協力を行った。
15.日本心理学会地域別代議員（近畿）	2018年4月~2019年3月	日本の心理学を代表する学会である日本心理学会の近畿地域の代議員として任期期間中に活動を行った。
16.公益社団法人奈良県トラック協会高齢者事故防止講習会講師	2017年8月	公益社団法人奈良県トラック協会主催の高齢者事故防止講習会において，登録された地域の高齢者の方に対して高齢交通参加者の交通安全に向けた講習を行った。
17.一般財団法人大阪府交通安全協会安全管理者講習講師	2016年12月~2021年3月	一般社団法人大阪府交通安全協会主催の安全管理者講習において，安全運転管理者に対する交通安全知識として，2017年度は「ドライバーの注意力と安全」について，2018年度は「睡眠と安全運転」について，2019年度は「高齢者の交通事故について考える」について，2020年度は「子どもの交通事故を減らすために」について，講師陣でテキストを作成し，講義を行った。
18.滋賀県警察本部交通部滋賀県指定自動車教習所職員講習講師	2016年10月	滋賀県の指定自動車教習所の指導員に対して，交通事故動向，第10次交通安全基本計画を踏まえた上で，リスクテイキング，高度道路交通システム（ITS）と自動運転，リスク補償，カーコミュニケーションについて講習を行った。
19.第11回日本応用老年学会大会自主企画シンポジウム「認知心理学から考える高齢者の実生活：情報化社会で高齢者の知識や経験を社会に活かすために」企画	2016年10月	知識や経験が社会に活かされる高齢者の生活を実現する上で，現在及びこれからの社会における課題に対して認知心理学がそれらの課題を解決しながら学問の発展に寄与できる研究テーマや方法論について企画代表者として議論を促した。
20.滋賀県警察本部交通部滋賀県指定自動車教習所職員講習講師	2015年9月	滋賀県の指定自動車教習所の指導員に対して，高齢ドライバーの運転行動と運転補償の効果について講習を行った。
21.一般社団法人京都府指定自動車教習所協会京都府指定自動車教習所職員講習講師	2015年6月~2017年6月	京都府の指定自動車教習所の職員に対して，教習指導員として必要な知識として，最近の交通情勢と教習所の役割を踏まえた上で，自動車教習所における教育理論，ITSとリスク補償について講習を行った。
22.日本老年社会科学会第56回大会インタレストグループ 「加齢に伴う心身機能と環境・テクノロジー」取りまとめ役	2014年6月	デザイン・工学・建築，移動手段に関連する老年学研究者を一つのインタレストグループとして取りまとめ，加齢に伴う心身機能と環境・テクノロジー研究の動向や問題について議論を行った。
23.The International Maritime Research Centre発行「Journal of Maritime Researches」 Assistant Editor	2014年5月	神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センターにおいて毎年発行される英文雑誌の編集および査読手続きについて編集委員として活動を行った。
24.一般社団法人交通科学研究会機関紙編集委員	2013年12月~2021年3月	学術雑誌「交通科学」の編集委員として，投稿原稿の査読編集，年2回発行の特集の取りまとめ等について活動を行った。
25.本航海学会第129回講演会スタッフ	2013年11月	神戸大学海事科学研究科が担当し，神戸ポートタワーホテルで開催された日本航海学会講演会について，スタッフとして活動を行った。
26.日本老年社会科学会第55回大会準備委員	2013年6月	大阪国際会議場で開催された日本老年社会科学会第55回大会の準備委員として，活動を行った。
27.Asia Navigation Conference 2012 KOBEスタッフ	2012年11月	神戸大学海事科学研究科が担当し，神戸ポートタワーホテルで開催された，日本・中国・韓国の航海学会合同開催の学術会議について，スタッフとして活動を行った。
4 その他		
1.武庫川女子大学PRESENTS第7階サイエンス・コモンズセミナー	2025年2月26日	研究所棟1階サイエンス・コモンズおよび遠隔で開催されたセミナーにて講師として「齢期における感情と意

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2.2024年度第4回MUKOJO研究ポットラック	2024年10月29日	思決定」についての発表および意見交換を行った。 第4回MUKOJO研究ポットラックにて「身体機能とQOL」というテーマで発表とディスカッションを行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.応理学ハンドブック	共	2022年9月	福村出版 （編集）日本応用心理学会企画『応用心理学ハンドブック』編集委員会　藤田主一・古屋健・角山剛・谷口泰富・深澤伸幸・市川優一郎	担当部分「第14章Topic2高齢者の運転回避・運転停止」 日本における高齢者の免許保有や免許返納実態についてまとめた上で，研究と動向を述べ，生涯教育の在り方やシステム構築に向けた展開について提言を行った。
2.あなたとわたしの心理学	共	2021年3月	ナカニシヤ出版 （編集）羽野ゆつ子・竹原卓真	担当部分「第10章人はどのように年齢を重ねていくのか？－中年期・高齢期の心理学－」 生涯発達の観点から，中年期と高齢期の課題や変化，そして人生の締めくくりである死に至るまでの発達についてまとめ，初学者の理解が深まるように執筆した。
3.現代社会と応用心理学　第4巻クローズアップ職場・安全	共	2015年12月	福村出版 （編集）森下高治・蓮花一己・向井希宏	担当部分「トピック13交通事故と交通コンフリクト」158頁～168頁（269頁中） 交通事故の分析方法，交通コンフリクトの説明及びその測定法などを説明した。
4.Advances in Traffic Psychology	共	2012年10月	Ashgate Publishing （編集）Mark Sullman & Lisa Dorn	担当部分「Chapter19 Differences in driving behaviours between elderly drivers and middle-aged drivers at intersections.」207頁～216頁（314頁中） 一時停止交差点において優先・非優先の違いに着目した高齢ドライバー・非高齢ドライバーの運転行動を比較検討した研究について報告を行った。
2 学位論文				
1.博士論文	単	2012年3月	大阪大学 第25301号	博士論文題目「加齢と補償方略に関する研究―日常場面と交通場面における検討―」 前半で日常場面における高齢者の記憶と記憶補償との関係について，後半で交通場面における高齢者の運転行動と運転補償との関係について，調査・実験を行い，補償の観点に基づいて加齢変化について論じた.
2.修士論文	単	2009年3月	大阪大学 人科第1098号	修士論文題目「高齢期の展望的記憶に関連する要因の検討」 展望的記憶に関連する要因を明らかにするために，パーソナリティを含む心理社会特性との関連を検討するために質問紙調査，そして規則的な予定や不規則な予定などの違いについて実験を行い，し忘れ防止について論じた。
3.学士論文	単	2007年3月	神戸大学 発第2871号	学士論文題目「愛着スタイルの世代間伝達について―防衛スタイルとの関連―」 大学生の子とその母親を対象にアタッチメントの世代間の関連性について郵送法を用いた質問紙調査を行い，防衛機制の観点から論じた。
3 学術論文				
1.青年期における親の養育態度と尊敬関連感情の関連	共	2024年3月	同志社心理 70 16-21 （紀要論文）	内山伊知郎，金山英莉花，太子のぞみ，佐藤未波，坂根優菜 大学生を対象に，親の養育態度と尊敬関連感情の関連について検討した。
2.絵本の読み聞かせにおけるマザリーズと幼児の物語産出の関連	共	2023年3月	同志社心理 69 1-6 （紀要論文）	金山英莉花，太子のぞみ，菴田ゆり子，楠本奈央，山本夏穂，内山伊知郎 母親による絵本の読み聞かせにおけるマザリーズの表出が，幼児の物語算出との関連を検討した。
3.An experimental study on errors regarding the	共	2022年4月	ATSS Research 46 (1), 147-153 （査読付）	Toshiaki Kimura, Yasuo Imai, Shingo Moriizumi, Asako Yumoto, Nozomi Taishi, Hiroshi Nakai, Kazumi Renge 男子大学生を対象に教習者の車両を用いて路上にて走行実験を行

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
driving behavior of young males caused by temporal urgency on open roads: A Bayesian estimation				い，車線変更時の動作について分析を行った。
4.母親の愛着と読み聞かせの関連	共	2022年3月	同志社心理 68 16-21 （紀要論文）	内山伊知郎，金山英莉花，太子のぞみ，池松佳奈，大石奈々，戸風柚里奈 母親のアタッチメントと子への読み聞かせ行動の関連を検討した。
5.母親の育児自己効力感と，歌いかけ頻度および歌いかけ時の子どもの反応の関連	共	2022年3月	同志社心理 68 8-15 （紀要論文）	金山英莉花，濱田美優，今井瞳，近藤珠理，太子のぞみ，内山伊知郎 母親を対象に調査を実施し，母親の育児自己効力感と，子への歌いかけ頻度および歌いかけ時の子どもの反応の関連を検討した。
6.The impact of age on goal-framing for health messages: The mediating effect of interest in health and emotion regulation.	共	2020年9月	Public Library of Science社『PLOS ONE』 15 (9) e0238989 （査読付）	Kouhei Masumoto, Mariko Shiozaki, Nozomi Taishi オンライン調査において健康行動に関するポジティヴあるいはネガティブなフレーミングメッセージを提示された場合，若年群はネガティブフレームにおいてより正確に記憶している一方，高齢群はポジティヴフレームにおいて成績が良く，さらにポジティヴフレームにおいて健康促進への関心が高い場合に再認の正確性が高まることが確認された。
7.高齢運転者の運転が困難な状況での運転頻度及び運転回避頻度における性差	共	2017年9月	公益社団法人産業安全技術協会『労働安全衛生研究』Vol.10(2) 75頁-83頁 （査読付）	太子のぞみ・臼井伸之介 高齢者講習受講者に対して調査を実施し，高齢期における運転頻度及び回避に関する性差とその関連性について検討した結果，高齢期における運転頻度に性差は無いが，運転距離及び運転が困難な状況での運転頻度には性差があることが明らかとなった.
8.長距離歩行とセーリングを用いた野外体験型新人社員研修プログラムが参加者のライフスキル獲得に及ぼす影響	共	2017年8月	日本海洋人間学会『海洋人間学雑誌』Vol.6(1) 1頁-8頁 （査読付）	太子のぞみ・小原朋尚・渕真輝・藤本昌志・原口啓太朗・鈴木崇応 新人社員研修の一環として，ウォーキングセクション，ソロセクション，セーリングセクションによって構成される困難な状況を設定した野外体験型の研修プログラムを実施し，ライフスキルに焦点を当ててその変化を検討した結果，特にセーリングセクションにおいて個人的スキル及び対人スキルともに顕著な向上が示され，人材育成活動として一定の効果があることが示唆された。
9.Age and Gender Differences in Relationships Among Emotion Regulation, Mood, and Mental Health	共	2016年3月	SAGE Journals『Gerontology and Geriatric Medicine』Vol.2 1頁-8頁 （査読付）	Kouhei Masumoto, Nozomi Taishi, Mariko Shiozaki オンライン調査を実施して，年齢が感情調節に及ぼす影響，精神的健康や性差との関連について検討した結果，感情統制に対する性別の影響が確認され，男性において加齢に伴って認知的再評価が高まり，ポジティヴ感情へ影響することが確認された。
10.高齢ドライバーの運転補償行動の背景要因の検討	共	2014年9月	(一社)日本交通科学学会『交通科学』Vol.45(1) 21頁-27頁 （査読付）	太子のぞみ・臼井伸之介 高齢者講習受講者を対象とした質問紙調査の結果，運転技能の自己評価が運転補償行動に影響を与えること，運転補償行動による事故や違反の抑制に対する効果が検証された。
11.高齢者を対象とした聴力の主観評価尺度の作成	共	2012年10月	ワールドプランニング 『老年社会科学』Vol.34(3) 317頁～324頁 （査読付）	石岡良子・権藤恭之・黒川育代・蓮花のぞみ 健聴高齢者から軽中等度の難聴者を対象とした聴力の主観評価尺度を作成し，純音の平均聴力レベル等との関係について検証した。
12.メモの利用が高齢者の展望的記憶に及ぼす補償効果の検証と効果的なメモの検討	共	2012年7月	(一社)日本応用老年学会 『応用老年学』Vol.6(1) 50頁～58頁 （査読付）	山根裕樹・権藤恭之・蓮花のぞみ・石岡良子 高齢者を対象に実験室実験を実施し，展望的記憶パフォーマンスに対するメモの使用の補償効果とメモの利用方法について検討し，時系列に記述されたメモ得点と成績との間に有意な相関関係がみられ，メモの利用方法によって展望的記憶への補償効果に差が生じることが示唆された。
13.メモの利用が高齢者	共	2012年7月	(一社)日本応用老	山根裕樹・権藤恭之・蓮花のぞみ・石岡良子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
の展望的記憶に及ぼす補償効果の検証と効果的なメモの検討			年学会　『応用老年学』Vol.6(1) 50頁～58頁 （査読付）	高齢者を対象に実験室実験を実施し，展望的記憶パフォーマンスに対するメモの使用の補償効果とメモの利用方法について検討し，時系列に記述されたメモ得点と成績との間に有意な相関関係がみられ，メモの利用方法によって展望的記憶への補償効果に差が生じることが示唆された。
14.交差点における高齢ドライバーの運転行動と自己評価の関係―非高齢ドライバーとの比較―	共	2011年4月	(一社)日本交通科学学会『交通科学』Vol.41(2)．55頁-65頁 （査読付）	蓮花のぞみ・多田昌裕・臼井伸之介・蓮花一己 一般道を走行し，高齢ドライバーと非高齢ドライバーの運転行動を比較した結果，右折時では高齢ドライバーは進行方向と反対側の確認が不十分なこと，一時停止交差点直進時に減速開始が遅いことが示された。また運転の自己評価では確認で高齢ドライバーの自己評価と実行動との乖離が示され，高齢ドライバー特有の問題点が明らかとなった。
15.Reliability and Validity of the Prospective and Retrospective Memory Questionnaire (PRMQ) in Young and Old people: A Japanese Study	共	2010年9月	John Wiley & Sons Australia, Ltd　『Japanese Psychological Research』Vol.52 (3)　175頁～185頁 （査読付）	Yasuyuki Gondo, Nozomi Renge, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Daisuke Ueno, Peter Rendell 展望的回想的記憶質問紙の日本語版を作成し，若年者と高齢者合計2160名を対象として信頼性・妥当性の検討を行い，信頼性と妥当性について検証した。
16.青年期と成人期における愛着スタイルと防衛スタイルの関連性	単	2009年2月	大阪大学大学院人間科学研究科臨床死生学研究室『生老病死の行動科学』Vol.13　3頁～13頁 紀要論文（査読付）	青年期と成人期を対象に質問紙調査を実施，愛着スタイルと防衛スタイルの関連，そして違いを検討した。
17.展望的記憶における年齢と関係したパラドックスに関する研究の動向	単	2009年2月	大阪大学大学院人間科学研究科臨床死生学研究室『生老病死の行動科学』Vol.13　63頁～73頁 紀要論文（査読付）	展望的記憶における年齢と関係したパラドックスという現象の解明に向けて文献調査を行い，展望論文として研究の動向について記述した。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.高齢者の日常生活研究の新展開 ―生活に根ざした実践心理学と基礎心理学の架橋―	単	2023年3月	日本発達心理学会第34回大会日本発達心理学会関西地区懇話会企画シンポジウム 話題提供者	「高齢者の免許返納」について，高齢期における運転に関する意思決定．運転回避や運転補償，実行動と自己評価との乖離，免許返納における課題について自身の研究成果に基づいて話題提供を行った。
2.心理学から考える人口減少社会でのモビリティ：女性・高齢者・障害	単	2019年9月	日本心理学会第83回大会公募シンポジウム　話題提供者	「超高齢社会における高齢者の交通理学的課題」というタイトルで，高齢運転者の現状を踏まえた上で，加齢に伴う運転行動の変化，免許返納や運転中止に関する調査結果を報告し，事故防止対策について報告した。
3.Transportation Culture and Safety	単	2016年11月	International Association of Traffic and Safety Science. The second Global Interactive Forum on Traffic	「Current State of Traffic Safety Education in a Super-Aged Society and Issues」というタイトルで，(1) 技術者・専門家の育成，(2) 運転者に対する教育，(3) 歩行者に対する教育の3つの側面から日本の現状と課題について報告を行い，欧米アジア，アフリカなどの各地域の問題を情報共有した上で，課題解決に向けての有効な手段・方策について議論を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
			& Safety 2016 Workshopl　話題提供者	
4.認知心理学から考える高齢者の実生活：情報化社会で高齢者の知識や経験を社会に活かすために	単	2016年10月	第11回日本応用老年学会大会　自主企画シンポジウム　企画代表者・話題提供者	「運転行動に対する認知機能の影響と補償方略：高齢ドライバーの交通安全教育への示唆」というタイトルで，交通領域について話題提供を行った上で，知識や経験が社会に活かされる高齢者の生活を実現する上で，現在及びこれからの社会における課題に対して認知心理学がそれらの課題を解決しながら学問の発展に寄与できる研究テーマや方法論について議論を行った。
5.各業界におけるヒューマンファクター研究：海事安全管理への応用を考える	単	2016年3月	神戸大学大学院海事科学研究科 附属国際海事研究センター海事安全管理部門ワークショップ　講演	「ドライバーの運転行動に関して」というタイトルで，実写走行実験の結果報告を踏まえて，ドライバーの自己評価と実行動の乖離，異なる行動特性を持った運転者との相互作用について，海事安全への示唆を示した。
6.海難0”ゼロ”を目指して～人間工学の取り組み	単	2014年6月	日本人間工学会第55回大会一般企画シンポジウム1S2 話題提供者	「練習船実習によるライフスキル変化の検討」というタイトルで，練習船実習前後のライフスキルおよび就業意識を比較した調査結果を報告し，今後の海事に関する人間工学的研究について議論を行った。
7.安全を実現するための多方面からの取り組み(1)―運転の階層と交通参加者のライフステージに応じた人間工学的介入―	単	2014年6月	日本人間工学会第55回大会一般企画シンポジウム1S3 話題提供者	「加齢に伴う運転行動の変化と補償行動の関連」というタイトルで，超高齢社会である我が国における道路交通社会について，高齢期に特化した現行の交通対策の課題と展望について述べた。
8.高齢ドライバーにおける運転行動と認知機能の関連	単	2013年9月	日本心理学会第77回大会　小講演	「高齢ドライバーにおける運転行動と認知機能の関連」というタイトルで，加齢に伴う運転行動の変化、加齢に伴う低下が顕著な複数の認知機能と運転行動との関連、運転行動と運転補償の関連についての検証についてまとめた研究成果を報告した上で，高齢者が自立した生活を送るために，個人に応じた運転補償方略を有効に活用する意義について提言を行った。
9.心理学統計の基礎	単	2013年7月	日本交通心理士会第4回中部・近畿地区研究会プログラム　ワークショップ講演	「心理学統計の基礎」というタイトルで，交通心理士を対象に，統計の基礎知識を伝えた上で，学会大会や学術雑誌における研究結果の理解や自ら実験や調査等によって得たデータを分析できるように講演を行った。
10.高齢者のモビリティ安全支援の在り方について―女性交通心理学者からの視点から―	単	2011年9月	日本応用心理学会第78回大会　大会企画シンポジウム1　話題提供者	「交差点における高齢ドライバーの運転行動－非高齢ドライバーとの比較－」というタイトルで，公道での実車走行実験を実施し，高齢ドライバーと非高齢ドライバーの運転行動を比較した結果を報告するとともに，女性高齢ドライバーの特徴について述べ，議論を行った。
2．学会発表				
1.高齢者を対象とした手がかり語法による自伝的記憶の想起 ―心像性による鮮明度および想起容易度への影響の検討――	共	2025年11月9日	関西心理学会第136回大会発表分文集	高齢者を対象に、高心像語および低心像語を手がかり語とした手がかり語法を用いた実験を行い，鮮明度および想起容易度について検討した。その結果，高心像語条件の方が低心像語条件よりも鮮明かつ容易に出来事を思い出すことができきることがわかった。
2.青年期における親の養育態度と特性尊敬関連感情の関連	共	2023年9月	日本心理学会第87回大会	金山英莉花，太子のぞみ，内山伊知郎 青年期である大学生を対象に調査を実施し、親の養育態度と特性尊敬関連感情との関連について検討した。
3.高齢期における運転免許証の自主返納プロセスについての検討―複線径路等至性モデリング（TEM）を用いた質的分析―	共	2023年3月	日本発達心理学会第34回大会	太子 のぞみ・金山 英莉花・内山 伊知郎 免許を返納した高齢者に対して個別に半構造化面接を行い、免許返納に至るプロセスについて検討した。
4.免許返納者と免許保有者における免許返	共	2022年9月	日本応用心理学会第88回大会	太子 のぞみ・金山 英莉花・内山 伊知郎 免許返納者と免許保有者を対象にオンライン調査を実施し，運転中

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
納に対する意識の検討				止の満足度に影響する要因の検討行った。
5.絵本の読み聞かせにおけるマザリーズと年長児の物語産出の関連	共	2022年9月	日本応用心理学会第88回大会	金山 英莉花・太子 のぞみ・内山 伊知郎 年長児に対する母親の絵本の読み聞かせと子どもの物語算出の関連を検討した。
6.高齢ドライバーの免許返納意識に関連する要因の検討-KJ法を用いた質的内容分析-	共	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	太子のぞみ・山本京佳・内山伊知郎 普通自動車第一種運転免許を所有している高齢ドライバーを対象に，免許返納意識に関連する要因を質的内容分析によって明らかにすることを目的に，「利便性」「免許保有・車運転の必要性」「認知的・身体的理由」「事故」「更新」等のカテゴリーを抽出した。
7.高齢ドライバーの免許返納更新・返納に対する意識調査	共	2019年10月	第9回日本認知症予防学会学術集会	浅田克子・太子のぞみ 免許更新を希望している高齢運転者の意識調査を行った結果，自己評価が高い高齢者が多いこと，認知症についての関心は高い一方，具体的な「認知症予防」「安全運転継続」が分からない状態の方が多いことが示唆された。
8.高齢ドライバーの減速行動と身体機能についての実験的検討	共	2019年10月	第9回日本認知症予防学会学術集会	太子のぞみ・浅田克子・臼井伸之介 高齢ドライバーを対象に，一時停止交差点における減速行動に焦点を当てた実車走行実験を行い，身体機能との関連を検討した結果，年齢による減速行動の低下は示されなかった一方，認知機能の程度による減速行動の違いが示唆された。
9.Satisfaction with discontinuing driving among older people who returned their driver's license.（査読付）	共	2019年10月	The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress.	Nozomi Taishi・Ichiro Uchiyama 自主的に免許を返納した高齢者の自身の運転中止に対して満足感について調査を実施した結果，約7割の高齢者がその選択をポジティヴに捉えていたことが確認された。
10.)The effect of age and preference on anticipated gains and losses related to continuing and stopping driving（査読付）	共	2018年6月	29th International Congress of Applied Psychology.	Nozomi Taishi, Kouhei Masumoto, Mariko Shiozaki 医師による疾病による運転に対する支障を告げられるシナリオ調査を用いて，運転中断もしくは継続の意思決定に関する利得と損失の評価について示した。
11.児童の自主性を生かした安全教育の効果（２）ハザードへの気づきに与える影響	共	2017年10月	日本教育心理学会第59回大会	岡真裕美・森泉慎吾・太子のぞみ・中井宏・臼井伸之介 児童を対象とした安全教育プログラム「ひなどり」を実施し，校区の危険の認識に対して調査を行い，危険発見度の変化を検証した。
12.Effects of Aging on Goal-Framingin Health-Related Message（査読付）	共	2017年10月	39th Annual Meeting of the Society for Medical Decision Making	Kouhei Masumoto, Shiozaki Mariko, Nozomi Taishi 健康促進に関連した，ポジティブあるいはネガティブフレームによる提示によるメッセージの効果を示した。
13.実走場面での動作本位反応の生起メカニズムに関する実験的研究（2）一時停車とバック行動を対象として	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会	今井靖雄・木村年晶・森泉慎吾・湯本麻子・太子のぞみ・中井宏・蓮花一己 ドライバーの一時停車およびバック運転において，確認および合図とハンドル操作のタイミングのギャップを検討した。
14.実走場面での動作本位反応の生起メカニズムに関する実験的研究（1）一確認・合図とハンドル操作との差分に着目して一	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会	木村年晶・今井靖雄・森泉慎吾・湯本麻子・太子のぞみ・中井宏・蓮花一己 実走場面において促迫状況を実験的に設定し，通常条件と促迫条件における確認や合図とハンドル操作のタイミングについて検討した。
15.バス乗務員における車線変更/進路変更時	共	2017年6月	日本交通心理学会第82回大会	中井宏・森泉慎吾・太子のぞみ・蓮花一己・木村年晶 バスドライバーの運転行動を記録し、車線変更場面における安全確

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の運転行動分析（査読付）				認・合図と動作のタイミング実態を検討した結果，タイミングに個人差があること，合図が早めの乗務員は後方や側方の安全確認も早めであることが示唆された.
16.連携作業における作業条件の変化がパフォーマンスに与える影響について	共	2016年12月	平成28年度日本人間工学会関西支部大会	酒井潔・森泉慎吾・太子のぞみ・臼井伸之介 上位階層と下位階層を想定した連携作業場面において，統制条件，タイムプレッシャー条件、乱れ条件といった異なる作業リズムで連携者から送られてくる課題を課し，作業パフォーマンス及び心理変数に対する影響を検討した。
17.帆船を用いた企業研修が参加者に与える影響について	共	2016年9月	日本海洋人間学会第5回大会	渕真輝・上野ゆずき・藤本昌志・廣野康平・小西宗・太子のぞみ・小原朋尚 帆船を用いた集団体験を企業研修に取り入れ、受講生のライフスキル及びチームワークの変化について検討した。
18.The risk cognition distorted by beneficial and emotional factors（査読付）	共	2016年8月	the 2016 International Conference on Traffic and Transport Psychology.	Nozomi Taishi, Kouhei Masumoto, Mariko Shiozaki 一般成人を対象に，ベネフィットと感情要因を操作したシナリオ調査を実施した結果，ベネフィットが高く，好き感情が高い者ほどリスク認知が歪むことを示した。
19.The reasons for treatment choices in terminal cancer stage.（査読付）	共	2016年7月	INTERNATIONAL JOURNAL OF PSYCHOLOGY. 51. 352	Mariko Shiozaki, Nozomi Taishi, Kouhei Masumoto 一般成人を対象としたインターネット調査を実施して，終末期の治療選択の背景要因について検討した。
20.Age and gender differences in relationships among emotion regulation, mood, and mental health.（査読付）	共	2016年7月	INTERNATIONAL JOURNAL OF PSYCHOLOGY. 51. 53.	Kouhei Masumoto, Nozomi Taishi, Shiozaki Mariko 一般成人を対象としたインターネット調査を実施して，感情調整及び気分，精神的健康の関連性における年齢と性別による違いについて検討した。
21.The decision-making of stopping or going in automobile driving.（査読付）	共	2016年7月	INTERNATIONAL JOURNAL OF PSYCHOLOGY. 51. 353.	Nozomi Taishi, Kouhei Masumoto, Mariko Shiozaki 一般成人を対象に，リスクの程度や運転の必要性を操作したシナリオ調査を行い，ドライバーの運転中止・継続の意思決定について検討した。
22.がんの終末期の治療選択と選択肢のコスト-ベネフィットの関連：一般成人を対象とした探索的検討	共	2016年6月	第21回日本緩和医療学会学術大会	塩崎麻里子・太子のぞみ・増本康平 一般成人を対象としたインターネット調査を実施し，がんの終末期の治療選択に対するコスト及びベネフィットの影響について探索的に検討した。
23.児童の自主性を生かした安全教育の効果－校外版「ひなどり」の実践－	共	2015年12月	平成27年度日本人間工学会関西支部大会	岡真裕美・森泉慎吾・太子のぞみ・中井宏・安達悠子・臼井伸之介 児童の視点を活かし，実行意図を踏まえて校区の通学路を中心とした安全教育を小学生に対して実施し，その効果を検証した。
24.加齢および将来展望と感情調整の関連-若年・中年・高齢者の比較-	共	2014年6月	日本老年社会科学会第56回大会	増本康平・太子のぞみ・塩崎麻里子 若年・中年・高齢者を対象としてインターネット調査を実施し，加齢と将来展望と感情調整の関連について検討した。
25.自動車運転中止・継続の意思決定における加齢及び保有効果の影響	共	2014年6月	日本老年社会科学会第56回大会	太子のぞみ・塩崎麻里子・増本康平 自動車の運転中止・継続の意思決定に対する年齢による違いと，保有しているものを手放すことが難しい保有効果について検討を行った。
26.練習船実習による実習生のライフスキルの変化	共	2013年9月	日本海洋人間学会第2回大会	脇田ひとみ・滝本剛士・渕真輝・蓮花のぞみ 練習船の実習の前後比較を行い，実習生のライフスキルの変化について検討した。
27.ヨットを用いた新人社員研修プログラムについて	共	2013年9月	日本海洋人間学会第2回大会	原口啓太朗・小原朋尚・渕真輝・藤本昌志・蓮花のぞみ・鈴木崇応 ヨット用いた研修がライフスキル向上に及ぼす効果について検討を行った。
28.高齢ドライバーの運	共	2013年6月	日本交通心理学会	蓮花のぞみ・中井宏・臼井伸之介

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
転行動と運転補償の関係（査読付）			第78回大会	高齢ドライバーにおける指導員評価による実運転行動と運転補償の関係について検討を行い，運転行動の評価が低い高齢ドライバーほど補償を行っていることが示唆された。
29.高齢者における記憶補償方略の利用頻度に影響する要因の検討―Memory Compensation Behaviour(MCQ)日本語版を用いて―	共	2013年6月	日本老年社会科学会第55回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・石岡良子・黒川育代・河崎円香 高齢者を対象として，記憶補償方略の利用頻度に影響を及ぼす要因について検討を行った。
30.The relationship between usual memory compensation behaviors and prospective memory performances with using memo papers among elderly people.（査読付）	共	2013年6月	The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics.	Nozomi Renge, Yasuyuki Gondo, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Madoka Kawasaki, Peter Rendell 自己報告された記憶補償行動と，実際にメモの使用の有無による展望的記憶パフォーマンスとの関係について高齢者を対象に実験を行った結果，メモ条件において成績が低い者ほど普段人を頼ったり時間をかける方略を用いることが示された。
31.高齢ドライバーの自己評価と運転補償方略の関係	共	2012年9月	日本応用心理学会第79回大会	蓮花のぞみ・臼井伸之介 高齢ドライバーの運転補償方略に対する心身機能や運転の自己評価が及ぼす影響について検討した。
32.A comparison between self-assessed and instructor-assessed driving skills of Japanese licensed drivers（査読付）	共	2012年8月	The 5th International Conference on Traffic and Transport Psychology.	Hiroshi Nakai, Nozomi Renge, Shinnosuke Usui 実車実験を実施し，運転行動の自己評価と他者評価である指導員評価を比較検討し，その相違を示した。
33.The relationship between driving behaviours and cognitive functions among elderly drivers（査読付）	共	2012年8月	The 5th International Conference on Traffic and Transport Psychology.	Nozomi Renge, Hiroshi Nakai, Shinnosuke Usui 高齢ドライバーと非高齢ドライバーを対象として，認知機能が運転行動に及ぼす影響について明らかにするために実験を実施し，処理速度や注意機能等の認知機能が及ぼす影響について示した。
34.場面別に見た運転技能の年代差（査読付）	共	2012年6月	日本交通心理学会第77回大会	中井宏・蓮花のぞみ・臼井伸之介 左折や右折，一時停止といった場面ごとの運転技能の20代から70代の年代による比較を検討した結果，より早期の40代以降で低下が示された。
35.The relationship between self-reported memory compensation behaviors and prospective memory performance in elderly people（査読付）	共	2012年6月	the 21st Nordic Congress of Gerontology.	Nozomi Renge, Yasuyuki Gondo, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Madoka Kawasaki, Peter Rendell 自己報告された記憶補償と実験室実験による展望的記憶パフォーマンスの関係を検討し，普段用いる方略と成績に関連があることを示した。
36.高齢者における認知機能と記憶補償の関係	共	2012年3月	日本発達心理学会第23回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・石岡良子・山根裕樹 高齢者における主観的な記憶補償の利用と認知機能の関係について検討した。
37.主観的運転技能の正確性に対する年齢の影響 ―自己評価時の評価基準を考慮した検討―	共	2011年9月	日本応用心理学会第78回大会	中井宏・蓮花のぞみ・臼井伸之介 主観的な運転技能の評価と実行動の違いに着目して，その正確性に対する年齢の影響について検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2．学会発表				
38.高齢者の展望的記憶方略の利用方法と背景要因	共	2011年9月	日本心理学会第75回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・石岡良子・黒川育代 複数の異なる展望的記憶方略をどのように組み合わせて利用するか及びその背景について検討した。
39.高齢期における記憶補償方略の使用と記憶の失敗の関係―日本語版Memory Compensation Questionnaireを用いて―	共	2011年6月	日本老年社会科学会第53回大会	蓮花のぞみ・石岡良子・黒川育代・河崎円香・権藤恭之 記憶補償質問紙の日本語版を作成し，その使用と記憶の失敗の関係を検討した。
40.Direct and Indirect Effects of Hearing Loss on Mental Health in Older Adults（査読付）	共	2010年11月	The Gerontological Society of America's 63rd Annual Scientific Meeting.	Yoshiko Ishioka, Yasuyuki Gondo, Ikuyo Kurokawa, Nozomi Renge, & Madoka Kawasaki 高齢者の聴力低下が精神的健康に与える直接的影響及び間接的影響について報告を行った。
41.高齢者を対象としたフレーミング効果の検討―認知機能との関連から―	共	2010年9月	日本心理学会第74回大会	河崎円香・権藤恭之・石岡良子・黒川育代・蓮花のぞみ 高齢者におけるフレーミング効果を検討して，その効果にどのような認知機能が関連しているかについて検討した。
42.齢者の認知機能に及ぼす仕事の複雑性の影響	共	2010年9月	日本心理学会第74回大会	石岡良子・権藤恭之・黒川育代・蓮花のぞみ・河崎円香 過去経験した仕事の複雑性[ヒト・モノ・データ]が高齢期の認知機能に及ぼす影響について検討した。
43.高齢者の展望的記憶に外的記憶補助が与える影響について(1) ―メモ利用の効果について―	共	2010年9月	日本心理学会第74回大会	権藤恭之・黒川育代・石岡良子・蓮花のぞみ・河崎円香 高齢者を対象として，展望的記憶パフォーマンスに対するメモの利用の効果について検証した。
44.Differences in driving behaviours between elderly drivers and middle-aged drivers at intersections（査読付）	共	2010年7月	27th International Congress of Applied Psychology.	Nozomi Renge, Masahiro Tada, Kazumi Renge, Shinnosuke Usui 一般道における実車走行実験を実施し，交差点における中年ドライバーと高齢ドライバーの運転行動の違いについて報告を行った。
45.高齢者の視聴覚機能に対する主観評価尺度の開発	共	2010年6月	日本老年社会科学会第52回大会	石岡良子・権藤恭之・黒川育代・蓮花のぞみ・河崎円香 高齢者を対象に，視覚及び聴覚機能に対する主観評価尺度の開発を行い，検証を行った。
46.Reliability and Validity of the Prospective and Retrospective Memory Questionnaire (PRMQ) in Young and Old people: A Japanese Study（査読付）	共	2010年6月	Cognitive Aging Conference.	Yasuyuki Gondo, Nozomi Renge, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Daisuke Ueno, Peter Rendell 展望的・回想的記憶質問紙の日本語版を作成し，若年群と高齢群を対象として，信頼性と妥当性を検証した結果について報告した。
47.運転暴露に関する高齢ドライバーと中年ドライバーの比較（査読付）	共	2010年6月	日本交通心理学会第75回大会	蓮花のぞみ・多田昌裕・蓮花一己・臼井伸之介 高齢ドライバーと中年ドライバーを対象として，運転曝露の程度の違いについて比較検討を行った。
48.Age related differences in the factors which influence on prospective memory（査読付）	共	2009年11月	The Gerontological Society of America 62nd Annual Scientitic	Nozomi Renge, Yasuyuki Gondo, Daisuke Ueno, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Ayako Fujita 自己報告された展望的記憶の失敗頻度に影響を及ぼす要因について若年者や高齢者を対象とした調査を実施し，その違いについて検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			Meeting, 127	
49.高齢者のし忘れ防止に関する検討―展望的記憶に着目して―	共	2009年9月	日本応用心理学会第76回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之 し忘れ防止のための展望的記憶方略の利用実態について検討した。
50.忙しさ・ルーティーン自己評価尺度（日本語版MPED）の信頼性と妥当性－記憶愁訴および展望的記憶方略との相関関係－	共	2009年8月	日本心理学会第73回大会	石岡良子・蓮花のぞみ・黒川育代・上野大介・権藤恭之・藤田綾子 忙しさとルーティーンの自己評価尺度の日本語版を作成し，信頼性と妥当性を確認し，記憶愁訴や展望的記憶方略との関連を検討した。
51.高齢者の展望的記憶研究（2）―パフォーマンスと認知機能との関係の検討―	共	2009年8月	日本心理学会第73回大会	黒川育代・蓮花のぞみ・石岡良子・権藤恭之・藤田綾子 高齢者における展望的記憶課題のパフォーマンスと認知機能の関係について検討を行った。
52.高齢期の展望的記憶研究(1)―Virtual Week とActual Week ―	共	2009年8月	日本心理学会第73回大会	蓮花のぞみ・石岡良子・黒川育代・上野大介・権藤恭之・藤田綾子 展望的記憶パフォーマンスを測定する実験室場面における課題と日常場面における課題の日本語版を作成して，加齢との関連・比較検討を行った。
53.Searching for sources of aging paradox in prospective memory（査読付）	共	2009年7月	The eighth biennial meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition.	Yasuyuki Gondo, Nozomi Renge, Ikuyo Kurokawa, Yoshiko Ishioka, Daisuke Ueno 展望的記憶におけるエイジングパラドックスが何故生じるのかについて，実験室実験や日常場面の実験を踏まえて検討した。
54.音声刺激によるストループテストの開発	共	2009年7月	日本認知心理学会第7回大会	黒川育代・蓮花のぞみ・石岡良子・上野大介・権藤恭之・藤田綾子 音声刺激を用いて実施するストループテストを開発し，実際に高齢者を対象として実施した。
55.実験室場面における高齢者の展望的記憶－Virtual Week－	共	2009年7月	日本認知心理学会第7回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・上野大介・石岡良子・黒川育代・藤田綾子 Virtual Weekという展望的記憶課題の日本語版を作成し，高齢者のパフォーマンスについて検討した。
56.Relation of evaluator’s attribute to self-reported visual and/or hearing difficulties（査読付）	共	2009年6月	The 19th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	Yoshiko Ishioka, Yasuyuki Gondo, Daisuke Ueno, Nozomi Renge, Ikuyo Kurokawa, Ayako Fujita 視覚・聴覚の主観的困難度に関して，高齢者を対象に検討した結果について報告を行った。
57.「記憶愁訴」の背景にある記憶の失敗行動の検討-記憶力低下を自覚させるものとは何か-	共	2009年6月	日本老年社会科学会第51回大会	権藤恭之・黒川育代・石岡良子・蓮花のぞみ 記憶愁訴の背景要因として，どのような記憶の失敗が影響しているのかについて検討した。
58.仕事／家事の複雑性尺度の信頼性・妥当性の検討	共	2009年6月	日本老年社会科学会第51回大会	石岡良子・権藤恭之・蓮花のぞみ・黒川育代・上野大介・藤田綾子 仕事および家事の複雑性の尺度を作成し，3因子の信頼性と妥当性について検討した。
59.高齢期における展望的記憶の自己評価に影響を及ぼす要因	共	2009年6月	日本老年社会科学会第51回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・上野大介・石岡良子・黒川育代・藤田綾子 展望的記憶の自己評価の背景要因について探索的に検討した。
60.展望的・回想的記憶尺度日本語版の信頼性と妥当性の検討	共	2008年11月	関西心理学会第120回大会	蓮花のぞみ・権藤恭之・上野大介・石岡良子・黒川育代・藤田綾子 展望的記憶の失敗・階層的記憶の失敗，規則・不規則，短期的・長期的といった下位尺度のある展望的回想的記憶尺度の日本語版を作成し，信頼性と妥当性について検討した。
61.成人母子における愛	共	2008年8月	日本心理学会第72	蓮花のぞみ・吉田圭吾

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
着スタイルの世代間伝達―防衛機制との関連―			回大会	大学生とその母親に対して質問紙調査を実施し，愛着スタイル及び防衛スタイルの関連について検討した。
３．総説				
1.総論「超高齢社会における高齢者の交通心理・行動」	単	2016年10月	(一社)日本交通科学学会『交通科学』Vol.47(1) 1頁-2頁	高齢者の交通事故死者数の増加を受けて，高齢者の交通心理・行動に関わる問題を取り上げ，運転・歩行・自転車といった状態別に特集を組み，加齢と交通に関する課題について論じた。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.高齢者の免許返納	単	2023年3月	日本発達心理学会第34回大会日本発達心理学会関西地区懇話会企画シンポジウム	シンポジウムの中で「高齢者の日常生活研究の新展開―生活に根ざした実践心理学と基礎心理学の架橋―」について話題提供を行った。
2.ライフイベントによる研究中断とキャリア	単	2022年1月	心理学ワールド96号，33	男女共同参画推進員会企画の私のワークライフバランスの記事として、自身のライフイベントによる研究中断とキャリアについてまとめた。
3.高齢者交通研究会のご紹介	単	2020年2月	日本発達心理学会ニューズレター第89号 13頁-14頁	日本発達心理学会会員向けの冊子内で，高齢者交通研究会の発足から主な活動内容について紹介を行った。
4.加齢変化と補償方略の関係	単	2018年10月	同志社大学心理学ランチョンセミナー	同志社大学心理学部教員，学生に対して，自己紹介およびこれまで行ってきた主な研究として，心身機能の加齢変化と補償方略の関係に関する調査・実験結果について報告を行い，質疑応答を行った。
5.第6回国際交通心理学会大会の報告	単	2016年10月	(一社)日本交通科学学会『交通科学』Vol.47(1) 73頁-74頁	2016年8月オーストラリア・ブリスベンにて開催された，第6回国際交通心理学会大会（The Sixth International Conference on Traffic and Transport Psychology: ICTTP 2016)に発表・参加し，その報告を行った。
6.超高齢社会における高齢者の交通心理・行動に関する文献リスト	単	2016年10月	(一社)日本交通科学学会『交通科学』Vol.47(1) 56頁-58頁	過去 5 年間以内に発表された高齢者の交通心理・行動に関する文献から，高齢自動車運転者，高齢歩行者，高齢自転車利用者を扱った学術論文等について検索を行い，英文，和文の順に取りまとめて紹介した。
7.THE BACKGROUND FACTOR OF THE DRINVING COMPENSATION BEHAVIOR AMONG ELDERLY DRIVERS	共	2016年3月	Osaka Human Sciences, 2016, 2, 1頁-15頁	Nozomi Taishi・Shinnosuke Usui 太子・臼井（2014）論文.の英訳紀要論文英訳紀要論文として掲載した。
8.)医療における良い意思決定とは？がんの終末期における治療選択と後悔に関する研究から	共	2016年2月	神戸アクティブエイジング研究センター設立記念シンポジウム　ポスターセッション	塩崎麻里子・太子のぞみ・増本康平 がんの終末期における治療選択及び選択後の後悔に関して調査結果を報告し、医療における良い意思決定について論じた。
9.齢者の意思決定バイアスの解明と自律に向けた生涯学習プログラムの開発	共	2016年2月	神戸アクティブエイジング研究センター設立記念シンポジウム　ポスターセッション	増本康平・塩崎麻里子・太子のぞみ・小俣貴宣 高齢者の意思決定バイアスを解明するために実施した調査及び高齢者の自律に向けた生涯学習プログラムの開発について報告を行った。
10.高齢ドライバーの運転継続・中止に関する意思決定	共	2016年2月	神戸アクティブエイジング研究センター設立記念シンポジウム　ポスターセッション	太子のぞみ・塩崎麻里子・増本康平 高齢者の運転に関する意思決定及びリスク認知のバイアスを解明するために，オンライン調査を行い，運転中止・継続の意思決定について報告を行った。
11.高齢者の補償行動と安全	単	2015年10月	一般社団法人交通科学研究会平成27年度研究討論会	「高齢者の事故防止について」という討論会の中で特に高齢ドライバーの心理特性を説明した。関西で交通工学や交通心理学の立場から研究している若手，中堅の研究者から最新の研究知見を紹介するために，研究Ⅰとして実行動と補償行動の関係，研究Ⅱとして運転補償方略の事故・違反への効果，最後に高齢ドライバーが補償する

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				ようになるメカニズムについて自己評価の観点から検討を行った内容について報告を行った。
12.自動車運転中止・継続の判断における加齢に伴うポジティヴィティ効果及び保有効果の影響	共	2014年8月	日本認知心理学会 高齢者心理研究部会　第10回研究会	太子のぞみ・塩崎麻里子・増本康平 運転場面を対象として，加齢に伴うポジティヴィティ効果・保有効果の検証するために，若年群・中年群・高年群を対象にオンライン調査を実施し,意思決定場面のシナリオに対して回答を求め，運転場面において年齢にかかわらず同世代に対するポジティヴィティ効果が認められ，高齢者のみ保有効果が認められたことを報告した。
13.高齢ドライバーの自己評価と運転補償方略の関係	共	2014年1月	高齢者交通研究会 第88回研究会　話題提供	高齢ドライバーが運転補償方略を行う背景要因を検討した調査結果を報告した上で，高齢ドライバーの補償方略の利用のメカニズムについて論じた。
14.高齢ドライバーにおける運転行動と認知機能の関連	単	2013年10月	高知工科大学　高齢者と交通事故に関する発表会	公道での実車走行実験を実施し，認知機能が運転行動に及ぼす影響を検討した結果について報告を行い，高齢者の交通事故防止対策について議論を行った。
15.ホープ登場 クロスロードの星	単	2011年11月	応用心理学会のクロスロード，4，16頁.	博士後期課程在籍当時の蓮花のぞみの自己紹介および研究テーマについて紹介を行った。
16.)The effect of external aids on prospective memory in elderly people	共	2011年3月	The 9th Tsukuba International Conference on Memory.	Hiroki Yamane, Yasuyuki Gondo, Ikuyo Kurokawa, Nozomi Renge, Yoshiko Ishioka, Madoka Kawasaki, Peter Rendell 高齢者を対象に展望的記憶課題を実施し，課題中に外的補助を利用することの効果を示した。
17.The effect of memory compensations on prospective memory performance in elderly people	共	2011年3月	The 9th Tsukuba International Conference on Memory.	Nozomi Renge, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Madoka Kawasaki, Yasuyuki Gondo 高齢者の記憶補償の種類別の利用頻度の違いと，実験室実験の成績と記憶補償との関連を報告し，普段から努力方略を利用している者ほど成績が良いことを報告した。
18.健常高齢者における転倒の前駆症状としての実行制御の低下:思考，歩行，転倒に関連する展望的研究	単	2011年2月	労働科学研究所『労働科学』Vol. 87(1)　39頁	Herman T, Mirelman A, Giladi N, Schweiger A, and Hausdorff JM.著 「Executive control deficits as a prodrome to falls in healthy older adults: a prospective study linking thinking, walking, and falling」The Journals of Gerontology: Series A, 2010, 65(10), pp.1086-1092. 転倒の前駆症状についての展望的研究について翻訳を行い，紹介を行った。
19.高齢ドライバーの高速道路走行時の運転特性調査分析	共	2010年3月	西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社平成21年度研究助成調査研究報告書	研究代表者：蓮花一己，共同研究者：多田昌裕・飯田克弘・池田典弘・藤村安則・蓮花のぞみ，研究協力者：国府田美幸・坂本龍哉・戸田英夫・栗山寿樹・中村佳弘 高齢ドライバーの運転特性に起因する運転時のリスク要因を明確にすることを目的に，走行実験及びアンケート調査を実施し，研究結果に基づいて，将来の高速道路での高齢ドライバーに関する安全対策について提言を行った。
20.高齢社会における高齢者のプロダクティブ・エイジング志向性を高めるための調査研究―尺度の開発と高齢者大学への適用―	共	2010年3月	大阪ガスグループ福祉財団研究報告書. 23. pp.101-109.	藤田綾子・狩谷明美・中原純・中里和弘・河村諒・蓮花のぞみ 高齢者大学学生を対象に調査を行い，プロダクティブエイジング志向性に関する尺度開発及び志向性を高めるための対応について検討を行った。
21.Influence of the external aid on prospective memory performance in old people	共	2010年3月	The 8th Tsukuba International Conference on Memory.	Yasuyuki Gondo, Ikuyo Kurokawa, Yoshiko Ishioka, Nozomi Renge, Peter Rendell 高齢者の展望的記憶に対する外的補助の効果について，実験室実験にてメモ条件と統制条件を設けて比較検討し，現実場面において高齢者の展望的記憶課題成績が良い理由を検討した。
22.Influence of cognition on the discrepancy between subjective and objective	共	2010年3月	The 8th Tsukuba International Conference on Memory.	Yoshiko Ishioka, Yasuyuki Gondo, Ikuyo Kurokawa, Nozomi Renge 高齢者の知覚機能における主観的及び客観的指標を測定し，不一致に対する認知機能の影響について報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
measurements of sensory function in old people				
23.Prospective memory strategies in elderly people	共	2010年3月	The 8th Tsukuba International Conference on Memory.	Nozomi Renge, Yoshiko Ishioka, Ikuyo Kurokawa, Yasuyuki Gondo 高齢者の展望的記憶方略の利用頻度を明らかにするために，年齢群による方略の違いを検討した結果，加齢とともに利用頻度が増加すること，高齢者において展望的記憶の失敗と生活習慣がパッシブトリガーの利用と関連していることを確認した。
24.高齢ドライバーの補償行動と運転行動の関連―中年ドライバーとの比較―	共	2009年10月	交通科学　第40巻　第2号 創立40周年記念号(2) pp. 41-46.	蓮花のぞみ・多田昌裕・臼井伸之介 中年ドライバーとの比較を行うことで，高齢ドライバーの運転曝露及び運転行動の特徴について明らかにした。
25.高齢期の展望的記憶に 関連する要因の検討―質問紙調査及び実験室場面・日常場面実験によるアプローチ―	単	2009年3月	臨老発表会	実験室場面と日常場面実験で異なる結果が生じるエイジングパラドックスの問題を取り上げ，展望的記憶自己評価に関連する要因を検討した調査結果および，規則性に着目した実験結果を報告し，日常場面の展望的記憶課題において高齢者の成績が良い背景要因について論じた。
26.高齢期の展望的記憶における規則性	単	2009年3月	関西若手研究者実験心理学研究会	日常記憶研究における展望的記憶に焦点を当て，2種類の実験結果を報告し，規則的な予定と不規則な予定の場合について考察を行った。
27.高齢ドライバーの運転挙動に関する文献調査　高齢ドライバーの心理・行動・生活特性に配慮した高速道路の交通安全に関する研究(Ⅱ)	共	2009年3月	平成20年度高速道路関連社会貢献協議会研究助成報告書	研究代表者：蓮花一己，共同研究者：飯田克弘・北川博巳・池田典弘・柳原崇男・多田昌裕，研究協力者：蓮花のぞみ・河本裕子・国府田美幸 報告書は高齢ドライバーに配慮した道路環境整備の検討を行うために，高齢ドライバーの心理的・身体的特性，生活特性などを含む総合的な運転特性を明らかにするものであった。研究協力者として，主に第2章高齢ドライバーの運転挙動に関する文献調査を担当し，2009年2月までに発行された約100程度の文献を入手し，「リスクテイキングの諸側面からみた運転行動研究」「交通状況毎の運転行動」「リスク対処行動」の3つの大分類に区分して整理を行った。
28.高齢ドライバーの文献調査　高齢ドライバーの心理・行動・生活特性に配慮した高速道路の交通安全に関する研究(Ⅰ)	共	2008年3月	平成19年度高速道路関連社会貢献協議会研究助成報告書	研究代表者：蓮花一己，共同研究者:飯田克弘・北川博巳・池田典弘・柳原崇男，研究協力者：蓮花のぞみ・木村直也 報告書は交通心理学・交通工学・福祉工学などの観点から高齢者が高速道路を利用する際の課題を分析するものであった。研究協力者として，主に第2章において，2008年2月までに発行された高齢ドライバーに関連する約300程度の文献を入手し，内容を「交通事故」「心身機能」「運転行動」「自己評価スキル」「交通安全対策」の5つの大分類に区分して整理を行った。
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2025年11月	関西心理学会第136回大会準備委員
2.2025年4月2027年3月	大阪府安全運転管理者等講習特別講師
3.2024年11月25日~現在	日本海洋人間学会
4.2024年9月2日2024年9月3日	令和6年度指定自動車教習所職員（副管理者）講習における講話
5.2024年6月	日本老年社会科学会第66回大会実行員・大会事務局
6.2024年1月~現在	日本発達心理学会ニューズレター編集委員
7.2023年9月~現在	日本発達心理学会関西地区懇話会幹事
8.2020年7月~2022年3月	近畿交通共済協同組合地域事業主・運行管理者事故防止セミナー講師
9.2020年3月	日本発達心理学会第31回大会委員
10.2019年7月	日本交通心理学会第84回大会日本交通心理学会第84回大会シンポジウム「様々な領域におけるリスクをめぐる心理学的研究―交通心理学の課題と発展に向けて―」企画・司会
11.2019年7月	日本交通心理学会第84回大会準備委員
12.2019年6月~2021年3月	一般社団法人大阪自動車学校協会大阪府自動車学校職員講習講師
13.2019年2月	公益社団法人奈良県トラック協会交通安全セミナー講師

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
14.2018年9月~2020年9月	日本海洋人間学会代議員
15.2018年8月	日本応用心理学会第85回大会スタッフ協力者
16.2018年4月~2019年3月	日本心理学会地域別代議員（近畿）
17.2017年8月	公益社団法人奈良県トラック協会高齢者事故防止講習会講師
18.2016年12月~2021年3月	一般財団法人大阪府交通安全協会安全管理者講習講師
19.2016年10月	滋賀県警察本部交通部滋賀県指定自動車教習所職員講習講師
20.2016年10月	第11回日本応用老年学会大会自主企画シンポジウム「認知心理学から考える高齢者の実生活：情報化社会で高齢者の知識や経験を社会に活かすために」企画・話題提供
21.2015年10月~2019年9月	一般社団法人京都府指定自動車教習所協会京都府指定自動車教習所職員講習講師
22.2015年9月	滋賀県警察本部交通部滋賀県指定自動車教習所職員講習講師
23.2014年6月	日本老年社会科学会第56回大会インタレストグループ 「加齢に伴う心身機能と環境・テクノロジー」取りまとめ役
24.2014年5月	The International Maritime Research Centre発行「Journal of Maritime Researches」Assistant Editor
25.2013年12月2021年3月	一般社団法人交通科学研究会機関紙編集委員
26.2013年11月	日本航海学会第129回講演会スタッフ
27.2013年6月	日本老年社会科学会第55回大会準備委員
28.2012年11月	Asia Navigation Conference 2012 KOBEスタッフ